

公立大学法人大阪第1期中期目標期間に係る 業務実績報告書に関する各委員ご質問・ご意見事項

目次

<論点に係るご質問・ご意見>

- 大阪公立大学の業務実績に関するご質問・ご意見
- 高専の業務実績に関するご質問・ご意見
- 法人の業務実績に関するご質問・ご意見

………… P. 2 - P. 9 (質問番号 1 - 6)
………… P. 10 - P. 14 (質問番号 7)
………… P. 12 - P. 17 (質問番号 8 - 14)

<計画項目全般（自己評価）に関するご質問・ご意見>

………… P. 18 - P. 21 (質問番号 15 - 17)

<論点以外のご質問・ご意見>

………… P. 22 - P. 30 (質問番号 18 - 28)

大阪公立大学の業務実績に関するご質問・ご意見

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
1	青木	7	評価の 妥当性 等	課外活動支援	V	評価が、IV(2022年度)→IV(2023年度)→V(総合)となった理由は、3年間平均で全ての指標の達成率が120%以上となったことによるものか？	課外活動の教育的効果の推進を目的とした助成制度「大阪公立大学 課外活動推進経費助成事業(OMU-SPEAK)」に関して、2022年度は10件(達成率100%)、2023年度は12件(達成率120%)、2024年度は15件(達成率150%)の支援を実施し、いずれも目標を上回る進捗となりました。また専任のボランティアコーディネーターを配置するとともに、中百舌鳥キャンパス及び杉本キャンパスでボランティアセンター説明会を複数回実施し、2022年度は140名(達成率117%)、2023年度は166名(達成率128%)、2024年度は154名(達成率118%)の学生が新規登録を行い、いずれも目標を大きく上回る進捗となりました。これらの取組を踏まえ、「中期計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「中期計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が4となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をV評価にしています。 (参考:中期計画における各達成水準の評価 ・課外活動団体への支援実施:4評価 ・大阪公立大学ボランティア・市民活動センターの設置、運営:4評価

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
2	網代	8	その他 (事実確認等)	キャリア支援	V	支援の充実に向け取組んでおられます。就職イベント実施体系の見直しを行ったとありますが、どのように見直されたのでしょうか？これらの支援活動による成果はどうであったのか教えてください。	大学統合に伴い、就職支援講座につきましては、府大・市大で重複していた同一内容の講座を集約し、同一テーマの講座を対面開催＋オンライン配信（ハイブリッド型）として、どのキャンパスからでも参加できるように見直しを行いました。さらにオンライン講座を録画して後日アーカイブ配信を行い、個別キャリア相談等を通じて視聴を促すことで、講座内容の周知、浸透を図りました。また、学内企業セミナーにつきましては、従来通り、中百舌鳥キャンパス及び杉本キャンパスで開催し、府大生、市大生、公大生が「いずれのキャンパスでも参加できる」ことを、SNSから郵送まであらゆるチャネルを活用して周知に努め、広く参加に繋げました。これらの取り組みにより、実施回数は集約しながらも、広く学生に参加・活用いただき、統合によるシナジーを創出しました。 成果を表すひとつの指標である「就職率（就職者数÷就職希望者数）」につきまして、2024年度において府大学士課程で98.1%、市大学士課程で98.2%と例年通り高い数値となりました。2025年度以降には、「就職先満足度」の調査を本格実施する予定であり、2024年度に実施したプレ調査（回答率36.1%）では、就職先満足度は89.3%と高い数値となりました。今後も就職支援イベントの他、個別キャリア相談を通じて学生の相談ニーズに丁寧に対応し、学生が満足度・納得度の高い進路選択が出来るように、支援に努めてまいります。 ↓ 次頁に続く ※記載内容が1ページに収まらないため

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
2	網代	8	その他 (事実確認等)	キャリア支援	V	支援の充実に向け取組んでおられます。 就職イベント実施体系の見直しを行ったとありますが、どのように見直されたのでしょうか？これらの支援活動による成果はどうであったのか教えてください。	■ 学士課程の就職率(府大) 2024年度: 98.1% 2023年度: 98.2% 2022年度: 98.8% ■ 学士課程の就職率(市大) 2024年度: 98.2% 2023年度: 97.9% 2022年度: 96.4% ■ 就職支援イベント参加者数 2024年度: 延べ11,194名 2023年度: 延べ9,018名 2022年度: 延べ8,851名 ■ 個別キャリア相談数 2024年度: 5,564件/目標5,200件(達成率107%) 2023年度: 5,889件/目標4,000件(達成率142%) 2022年度: 5,207件/目標4,000件(達成率130%)
3	水谷	11	評価の 妥当性 等	入学者選抜	III	志願者数は開学以来国公立大学で4年連続日本一になるなど顕著な実績を残しています。もう少し評価を上げて良いと思いますが、「III」としている理由は何でしょうか。	中期計画の達成水準に照らし、計画通りの進捗であると考えました。「中期計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「中期計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3となっています。また、志願者数は全国の国公立大学の中で1位を維持しましたが、2024年度入試より志願者数の微減、志願倍率の微減となっております。これまで志願者数、志願倍率が年々増加しておりましたため、2025年度入試の志願者数、志願倍率が減少することは、当然予測していたことでございまして、微減に留まったことは評価できると考えておりますが、減少しているという結果に対して、「計画を上回る成果を挙げた」という評価は出来ないと判断しました。このような事情から計画全体の評価をⅢ評価にしています。 (参考: 中期計画における各達成水準の評価) ・アドミッション・ポリシーに基づく多面的・総合的な評価を行う多様な入試の効率的な実施: 3評価 ・アドミッションセンターの設置、運営: 3評価 以上から、 $(3+3)/2 = \text{平均点} 3$
4	網代		評価の 妥当性 等			これまでの取組み状況・成果だけでなく、なお入試改革に取組まれる姿勢から、高い評価にしても良いと思いますが、Ⅲ評価にされた理由を教えてください。	

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
5	青木	11	評価の 妥当性 等	入学者選抜	Ⅲ	評価が、Ⅳ(2022年度)→Ⅴ(2023年度)→Ⅲ(総合)となった理由は？Ⅳでもいいような気がするが.	2022年度は、入試制度や問題作成の参考資料として、志願動向分析に加え、個別学力検査の各試験問題の大問別の得点分析を学部・学域別に行うなど、目標を上回る進捗となりました。「年度計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「年度計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3.25となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅣ評価にしています。 2023年度は、志願者数は一年おきに増加、減少を繰り返しやすい傾向があるなか、前年度を上回る志願者数となり、開学以来、国公立大学において志願者数日本一及び2年連続志願者数が増加しました。「年度計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「年度計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3.25となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅣ評価にしています。その後、法人評価委員会での議論の結果、Ⅴ評価に修正いただいています。 中期計画の自己評価につきまして、中期計画の達成水準に照らし、計画通りの進捗であると考えました。「中期計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「中期計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3となっています。また、志願者数は全国の国公立大学の中で1位を維持しましたが、2024年度入試より志願者数の微減、志願倍率の微減となっております。これまで志願者数、志願倍率が年々増加しておりましたため、2025年度入試の志願者数、志願倍率が減少することは、当然予測していたことございまして、微減に留まったことは評価できると考えておりますが、減少しているという結果に対して、「計画を上回る成果を挙げた」という評価は出来ないと判断しました。このような事情から計画全体の評価をⅢ評価にしています。 ↓ 次頁に続く ※記載内容が1ページに収まらないため

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
5	青木	11	評価の 妥当性 等	入学者選抜	Ⅲ	評価が、Ⅳ(2022年度)→Ⅴ(2023年度)→Ⅲ(総合)となった理由は？Ⅳでもいいような気がするが.	(参考:年度計画における各達成水準の評価) ■2022年度 ・2025年度大学入学者選抜の出題教科・科目の公表:3評価 ・実施体制や運用の統一項目の割合の向上:3評価 ・アドミッションセンターの設置:3評価 ・2022年度一般選抜(学部・学域)の動向分析:4評価 以上から、$(3+3+3+4)/4=$平均点3.25 ■2023年度 ・2025年度大学入学者選抜概要(配点・経過措置含む)の公表:3評価 ・実態調査の実施:3評価 ・アドミッションセンターの運用と体制整備:3評価 ・2023年度一般選抜(学部・学域)の動向分析:4評価 以上から、$(3+3+3+4)/4=$平均点3.25 (参考:中期計画における各達成水準の評価) ・アドミッション・ポリシーに基づく多面的・総合的な評価を行う多様な入試の効率的な実施:3評価 ・アドミッションセンターの設置、運営:3評価 以上から、$(3+3)/2=$平均点3

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
6	青木	19	評価の 妥当性 等	都市シンクタンク機能機能・技術インキュベーション機能の整備	Ⅲ	2023年度評価より総合評価が大きく下がる理由は？	2023年度は、「地域中核・特色ある研究大学の推進による産学官連携・共同研究の施設整備事業(20億円)」が採択され、「産学官民共創イノベーションエコシステム」のハブ機能を持つ施設「スマートエネルギー棟」の建設をなかもずキャンパスで進めました。また、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(5年間で55億円)」、「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業(2年間で2億円)」が採択され、スタートアップの参画や大学発スタートアップなどの「産学官民共創リビングラボ機能」を推進し、「都市シンクタンク」及び「技術インキュベーション」機能の充実に取り組みました。さらに、「大阪国際感染症研究センター」を本格稼働させ、研究力強化のため、国際的にも感染症研究のトップを走る長崎大学と包括連携協定を締結し、記念シンポジウムを実施しました。「年度計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「年度計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点は3.3となりましたが、上記取組を考慮し、計画全体の評価をⅤ評価にしています。 中期計画の自己評価につきまして、中期計画の達成水準に照らし、計画通りの進捗であると考えました。「中期計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「中期計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅢ評価にしています。 ↓ 次頁に続く ※記載内容が1ページに収まらないため

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
6	青木	19	評価の 妥当性 等	都市シンクタンク機能機能・技術インキュベーション機能の整備	Ⅲ	2023年度評価より総合評価が大きく下がる理由は？	(参考:年度計画における各達成水準の評価) ・イノベーションアカデミー構想への参画企業数(20社):4評価(実績:24社) ・「大阪国際感染症研究センター」の本格稼働による感染症の調査研究及び人材育成の推進:3評価 ・研究活動を推進するための感染動物実験施設整備:3評価 以上から、$(4+3+3)/3=$平均点3.3 (参考:中期計画における各達成水準の評価) ・「イノベーション・アカデミー構想」の具体化と実現に向けての推進:3評価 ・「大阪国際感染症研究センター」の設置と本格稼働:3評価 以上から、$(3+3)/3=$平均点3

高専の業務実績に関するご質問・ご意見

番号	質問委員	計画 No.	質問分類	項目	自己 評価	内容	回答
7	水谷	27	その他 (事実確認等)	高専教育の質 の向上と検証	Ⅲ	2023年度数理・データサイエンス・AI教育 プログラム習得率が2022年度と比べて大 幅に向上した理由として、「不合格科目の 再試験による単位の再認定を着実に実施 した結果」と記載されています。これは、試 験のチャンスを2回与えるだけでは無く、 不合格者もきちんと内容を理解する取組 みも再度行なっているという理解で良いで しょうか。	お見込みのとおりとなります。不合格になった科目は次年度に単位の再 認定試験(レポートも含む)を受けることができます。これまで十分な復 習をすることなく受験したり、再認定試験そのものを欠席する学生が見 られたことを踏まえ、担任・科目担当者からの指導・注意喚起等をはか り、必要な準備を行ってから再認定試験を受験するよう指導を強化して います。

法人の業務実績に関するご質問・ご意見

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
8	水谷	48	評価の 妥当性 等	人事給与制度	Ⅳ	2022年度と2023年度の評価結果とは異なった評価結果「Ⅳ」と判断した理由な何でしょうか。	2022年度、2023年度は、年度計画に対する達成水準について、それぞれ計画どおりの進捗となりました。「年度計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「年度計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅢ評価にしています。 中期計画の自己評価につきまして、当初計画に加え、研究支援面でのインセンティブを拡充した高インセンティブ型テニュアトラック制度の制度設計、教育研究系技術職員やURAにかかる新たなキャリアパスに関する制度設計、高度な専門性に見合う報酬を適用することのできる高度専門職員制度に関する制度設計を行いました。「中期計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「中期計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点は3となりましたが、上記取組を考慮し、計画全体の評価をⅣ評価にしています。 (参考: 年度計画における各達成水準の評価) ■2022年度 ・クロスアポイント制度の実施: 3評価 ・教員の年棒制導入の検討: 3評価 以上から、$(3+3)/2=$平均点3 ■2023年度 ・クロスアポイント制度の実施: 3評価 ・教員の年棒制導入: 3評価 以上から、$(3+3)/2=$平均点3 (参考: 中期計画における各達成水準の評価) ・年棒制導入: 3評価 ・クロスアポイントメント制度の活用・検証: 3評価 以上から、$(3+3)/2=$平均点3

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
9	水谷	49	評価の 妥当性 等	ダイバーシティ の推進	V	2022年度と2023年度の評価結果とは異 なった大幅な評価結果「V」と判断した理由 な何でしょうか。	2022年度は、年度計画に対する達成水準について、計画どおりの進捗 となりました。「年度計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～ 「1」までの5段階で評価し、「年度計画の達成水準」の平均値を算出した 結果、平均点が3.14となったため、自己評価の基準に基づき、計画全 体の評価をⅢ評価にしています。 2023年度は、研究者を対象とする各種相談窓口の設置について、目標 を上回る進捗となりましたが、実績としては、前年度と同水準となりまし た。その他の達成水準につきましても、計画通りの進捗となりました。 「年度計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段 階で評価し、「年度計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点 が3.33となりましたが、上記を踏まえ、計画全体の評価をⅢ評価にして います。 中期計画の自己評価につきまして、中期計画の達成水準のうち、女性 教員在籍比率、教授職の女性比率、女性職員の管理職比率、外国人 教員比率について、目標を上回る進捗となりました。また、各種女性研 究者支援施策の実施について、232名の研究者に研究支援員を配置す るとともに、研究者を対象とする各種相談窓口について、介護相談員窓 口を月2回実施しました。さらにその他の達成水準についても、計画通 りの進捗であると考えました。「中期計画の達成水準」を目標の達成度 に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「中期計画の達成水準」の平 均値を算出した結果、平均点が3.7となったため、自己評価の基準に基 づき、計画全体の評価をV評価にしています。 ↓ 次頁に続く ※記載内容が1ページに収まらないため

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
9	水谷	49	評価の 妥当性 等	ダイバーシティ の推進	V	2022年度と2023年度の評価結果とは異 なった大幅な評価結果「V」と判断した理由 な何でしょうか。	(参考: 年度計画における各達成水準の評価) ■2022年度 ・女性教員在籍比率(20%): 3評価(実績: 19.4%) ・教授職の女性比率(15%): 3評価(実績: 15.8%) ・プロモーションメンター制度の実施(2名以上): 3評価(実績: 4名) ・女性職員の管理職比率(20%): 3評価(実績: 20.5%) ・研究支援員制度の実施: 3評価 ・介護相談窓口の設置: 3評価 ・ロールモデル・セミナー等の意識啓発事業(1回以上): 4評価(実績: 2回) 以上から、$(3+3+3+3+3+4)/7=$平均点3.14 ■2023年度 ・女性教員在籍比率(20%): 3評価(実績: 19.3%) ・教授職の女性比率(15%): 3評価(実績: 15.5%) ・女性職員の管理職比率(20%): 3評価(実績: 21.9%) ・研究支援員の配置数(75名以上): 3評価(実績: 76名) ・研究者を対象とする各種相談窓口の設置(月1回以上): 5評価(実績: 月2回実施) ・ロールモデル・セミナー等の意識啓発事業実施(2件以上): 3評価(実績: 2件) 以上から、$(3+3+3+3+5+3)/6=$平均点3.3 (参考: 中期計画における各達成水準の評価) ・女性教員在籍比率20%: 3評価(実績: 21.2%) ・教授職の女性比率15%: 4評価(実績: 18.1%) ・女性職員の管理職比率20%: 4評価(実績: 25.0%) ・外国人教員比率3.1%: 4評価(実績: 3.5%) ・各種女性研究者支援施策の実施: 4評価 ・障がいのある教職員への支援の実施: 3評価 以上から、$(3+4+4+4+4+3)/6=$平均点3.7

番号	質問委員	計画No.	質問分類	項目	自己評価	内容	回答
10	青木	49	評価の妥当性等	ダイバーシティの推進	V	2025年4月時点での達成度で総合評価しているように思われるが、よいのか？	女性教員・研究者の採用や高位職階への登用促進等の取組については、その取組成果が翌年度4月1日採用に反映されるため、2025年4月1日時点の達成度で総合評価を行っております。
11	中島	49	評価の妥当性等	ダイバーシティの推進	V	2022～2025にかけ順調に成果を出しているが、実績として2025年4月1日付のデータが用いられているものがある(女性教員比率、教授職の女性比率、外国人教員比率)。今回の評価は2024年度までということであるが、2025年4月1日のデータは2024年度の取組の成果と理解して良いのであれば、Vという評価で良いと考えるが、そのような理解で良いか。	女性教員・研究者の採用や高位職階への登用促進等の取組については、その取組成果が翌年度4月1日採用に反映されるため、2025年4月1日時点の達成度で総合評価を行っております。
12	水谷	51	その他(事実確認等)	自己収入の確保	IV	この項目に関しては、特に良好な結果を示しているように思います。その中で特に外部資金獲得において効果的な方法があれば教えてください。	金銭的に成果を上げている要因としては、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-Peaks)、地域中核大学イノベーション創出環境強化事業(Bridge)等の大型資金を獲得できたことが大きく、これらの大型資金獲得の背景には教職協働による取り組み、URA等による研究者伴奏支援があったと考えられます。
13	海崎	51	その他(事実確認等)	自己収入の確保	IV	受益者負担とすべき費用にはどのようなものがあつたのか。不均衡の是正はどの程度進んでいるのか。	受益者負担については、利用者が限定される機器利用料や受講者が限定される副専攻や学外実習費にかかる検討課題がございました。受益者負担の不均衡の是正については、学部学域研究科担当者を含むWGを開催し、意見交換を行うことで、現状把握を行い、足並みをそろえた状態で予算配分を行いました。

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
14	青木	59	評価の 妥当性 等	環境マネジメン ト」	Ⅳ	森ノ宮キャンパスの工事竣工時点で総合 評価しているように思われるが、よいか？	森之宮キャンパスの工事につきましては、2025年3月に完了しておりますので、そちらも踏まえて総合評価を行っています。 https://www.omu.ac.jp/morinomiya/index.html#:~:text=Schedule-,%E3%82%B9%E3%82%B1%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%AB,-%E4%BB%8A%E5%BE%8C%E3%81%AE%E4%BA%88%E5%AE%9A

計画項目全般(自己評価)に関するご質問・ご意見

<計画項目全般（自己評価）に関するご質問・ご意見>

番号	質問 委員	計画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
15	青木	全般	その他 (事実確認等)			資料6-1に上げられているいくつかの項目については、年度ごとの評価水準の目標値と達成率が記載されているが、他の項目については年度ごとの目標値と達成率が記載されておらず、特に年度ごとに自己評価(Ⅲ,Ⅳ,Ⅴなど)が変化している項目についての妥当性を判断しにくい。	資料6-1につきまして、数値指標が設定されている項目にはその数値を記載し、数値指標が設定されていない項目については、第1期中期目標期間における主な取組内容を記載しています。また「年度計画の達成水準」または「中期計画の達成水準」として目標値が設定されている項目につきましては、数値に加え、目標値および達成率を記載しています。 年度ごとの自己評価の変化に関しまして、各年度の自己評価におきましては、「年度計画の達成水準」に基づき、目標の達成度に応じて評価を行い、その上で計画全体の評価を実施しています。第1期中期目標期間に係る自己評価においても同様に、「中期計画の達成水準」に基づき目標の達成度を評価し、その上で計画全体の評価を実施しています。
16	青木	全般	評価の 妥当性 等			資料6-1の判断理由の欄を見ると、「2022, 2023, 2024年度がいずれも目標値を上回るので高い評価とした」というような記述もあれば、「2022, 2023, 2024年度と大きく増加したので高い評価とした」というような表現もある。個人的にはどちらの場合でも高い評価で良いと思われるが、3年間の達成度をどう見て総合的な評価をするかについて、共通認識を持っておいた方がいいのではないかと。（以下の質問はほぼすべてこのことに関連している）	中期計画の達成水準に対する取組実績を踏まえて、自己評価を実施していますが、その判断にあたっては、各年度の目標に対する達成状況や中期計画期間を通じた実績の変化などを総合的に考慮し、評価を行っています。

<計画項目全般（自己評価）に関するご質問・ご意見>

番号	質問委員	計画No.	質問分類	項目	自己評価	内容	回答
17	浅田	全般	その他 (事実確認等)			大半の計画が「実施済」とされているが、注目すべきアウトカムがあれば知りたい。特に、自己評価がⅣ、Ⅴの項目について達成水準を上回った結果のアウトカムを知りたい。	自己評価Ⅳ、Ⅴの項目に関しまして、特に注目すべき成果について、以下のとおり記載させていただきます。 ■No.8「キャリア支援」、No.41「(府大)キャリア支援」、No.43「(市大)キャリア支援」(自己評価Ⅴ) 就職活動対象の学生向けイベントに加え、低学年向けおよび留学生向けのイベントを年間を通じて実施してまいりました。また、キャリアカウンセラーの増員により、学生の多様な相談ニーズに対して、よりきめ細やかに対応できる体制を整えております。これらの取組により、2024年度の就職率は、府大学士課程において98.1%、市大学士課程において98.2%と、いずれも例年同様に高い水準を維持いたしました。さらに、2025年度以降には「就職先満足度」に関する本格的な調査の実施を予定しており、2024年度に行ったプレ調査(回答率36.1%)では、満足度89.3%という高い結果が得られております。 ■No.12「研究力の強化」(自己評価Ⅴ) 女性研究者支援室によるスキルアップセミナーや若手研究者への研究費申請支援、通常の申請支援に加え、研究サポートセンターにおけるオフィスアワーの相談対応強化、キャリア支援、研究力向上セミナーの開催、博士後期課程学生へのメンタリングの実施など、女性および若手研究者に対する支援を一層充実させてまいりました。これらの取組により、本学の研究力の一層の高度化につながったものと考えております。 ↓ 次頁に続く ※記載内容が1ページに収まらないため

<計画項目全般（自己評価）に関するご質問・ご意見>

番号	質問 委員	計画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
17	浅田	全般	その他 (事実確認等)			大半の計画が「実施済」とされているが、注目すべきアウトカムがあれば知りたい。特に、自己評価がⅣ、Ⅴの項目について達成水準を上回った結果のアウトカムを知りたい。	■No.49「ダイバーシティの推進」(自己評価Ⅴ) 女性教員・研究者の採用促進や高位職階への登用推進等の取組を進めた結果、2025年4月1日時点において、女性教員比率、教授職の女性比率、女性職員の管理職比率、外国人教員比率のいずれにおきましても、目標値を上回る結果となっております。大阪商工会議所による「活躍する女性リーダー表彰(ブルーローズ表彰)」において、西岡英子特任准教授(2023年3月8日受賞)、森澤和子教授(2024年3月8日受賞)、石井小巻事務機構次長(2024年3月8日受賞)、福島若葉教授(2025年3月6日受賞)が受賞するなど、本学のダイバーシティ推進の取組が広く認知され、多様な人材が活躍できる環境整備と組織の活性化が着実に進展していると考えております。 ■No.51「自己収入の確保」(自己評価Ⅳ) 教職員による協働の取組や、URA等による研究者への伴走支援等を通じて、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-Peaks)」および「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業(Bridge)」等の大型外部資金を獲得することができました。これにより、大学・高専における教育、研究、社会貢献と成長を支える財政基盤の強化につながったものと考えております。 ■No.55「戦略的広報」(自己評価Ⅴ) 日本語および英語による研究プレスリリースの発信を強化し、2022年度以降、発信件数を大幅に増加させることができました。加えて、記者向け懇談会・イベントの開催、社会人向けWebマガジン「OMUOM」の創刊、学生広報スタッフによる森之宮キャンパスの情報発信など、広報活動を多角的かつ積極的に展開してまいりました。これらの取組により、報道機関からの取材依頼の増加および関係構築の深化に結び付いています。

論点以外のご質問・ご意見

<大阪公立大学の業務実績に関するご質問・ご意見>

番号	質問委員	計画No.	質問分類	項目	自己評価	内容	回答
18	青木	4	評価の妥当性等	教職員の教育 力向上	Ⅲ	2023年度(Ⅳ評価)と比べて2024年度も同程度の数値であるが、なぜ総合評価がⅢ評価となるのか？	2023年度は、全学FD事業の実施に関して、当初の計画に加えて、最新のニーズに応じた企画を追加で実施するなど、目標を上回る進捗となりました。その他の達成水準についても計画どおりの進捗となりました。「年度計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「年度計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3.2となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅣ評価にしています。 中期計画の自己評価につきまして、中期計画の達成水準に照らし、計画通りの進捗であると考えました。「中期計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「中期計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅢ評価にしています。 (参考:年度計画における各達成水準の評価) ・全学FD事業の実施:4評価 ・教育改革委員会の開催と部局FDの報告・情報共有:3評価 ・新任研修及び授業デザイン研修等の実施:3評価 ・教育を担当する専任教員に占めるFDに参加する教員の割合(9割程度以上):3評価 ・教職協働による教学に関わるFD・SDの実施:3評価 以上から、$(4+3+3+3+3)/5=$平均点3.2 (参考:中期計画における各達成水準の評価) ・全学および部局における組織的なFD活動の充実:3評価

<大阪公立大学の業務実績に関するご質問・ご意見>

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
19	青木	5	評価の 妥当性 等	学習支援	Ⅲ	実績を見ると、年度ごとに順調に増加しているが、Ⅳ評価とはならないのか？	中期計画の達成水準に照らし、計画通りの進捗であると考えました。「中期計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「中期計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅢ評価にしています。 (参考: 中期計画における各達成水準の評価) ・学生の学習支援体制や環境の整備、充実: 3評価 ・TF、TA、SA制度の実施及びティーチングスタッフの養成: 3評価
20	網代	9	評価の 妥当性 等	学生の健康支援	Ⅲ	受診率、相談件数の数値からⅢ評価にされたと考えますが、学内の相談・支援体制を充実されていることを評価することは難しいのでしょうか。(Ⅳ評価にしても良いと思います)	中期計画の達成水準に照らし、計画通りの進捗であると考えました。「中期計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「中期計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅢ評価にしています。 (参考: 中期計画における各達成水準の評価) ・健康診断受診率の向上: 3評価 ・学生相談体制の整備: 3評価 ・支援組織間の連携強化: 3評価
21	網代	16	その他 (事実確認等)	地域で活躍する人材の育成	Ⅲ	「地域実践演習」が杉本キャンパスで開講されなかった理由があれば教えてください。	2025年度の新副専攻の開講に向けて、2024年度は地域連携副専攻、地域再生副専攻の履修募集を休止いたしました。杉本キャンパスで開講している「地域実践演習」は、副専攻専用科目であることから、副専攻の履修募集の休止に伴い、閉講となりました。一方、中百舌鳥キャンパスで開講している「地域実践演習」は、副専攻科目であるとともに専門科目として開講しているため、副専攻の履修募集の停止にかかわらず、72名が受講しました。

<大阪公立大学の業務実績に関するご質問・ご意見>

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
22	青木	18	評価の 妥当性 等	産業活性化への 貢献	Ⅲ	2023年度評価より総合評価が下がる理由は？	2023年度は、民間企業等への知的財産権の技術移転に関して、66件（達成率132%、26,649千円）の実施許諾等契約を実施し、目標を大きく上回る進捗となりました。その他の達成水準についても計画どおりの進捗となりました。「年度計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「年度計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3.2となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅣ評価にしています。 中期計画の自己評価につきまして、中期計画の達成水準照らし、計画通りの進捗であると考えました。「中期計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「中期計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅢ評価にしています。 （参考：年度計画における各達成水準の評価） ・民間企業との共同・受託研究の実施（600件）：3評価（実績：706件） ・特許の活用件数（50件）：4評価（実績：66件） ・特許出願件数（100件）：3評価（実績：120件） ・大阪府及び府内自治体と連携して行う事業等の件数（20件）：3評価（実績：20件） ・府内に事業所を置く地域民間企業等との共同・受託研究（200件）：3評価（実績：200件） 以上から、$(3+4+3+3+3)/5$=平均点3.2 （参考：中期計画における各達成水準の評価） ・URAセンターなどによる組織的な産学官連携の推進：3評価 ・大学発スタートアップの創出支援や人材育成の推進：3評価 ・地域産業支援の推進：3評価 以上から、$(3+3+3)/3$=平均点3

<大阪公立大学の業務実績に関するご質問・ご意見>

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
23	水谷	18	その他 (事実確認等)	産業活性化への貢献	Ⅲ	実績の数値を見る限りは、2022年度と2023年度はあまり変わらないように見えますが、自己評価が異なった理由は何でしょうか。	2022年度は、年度計画に対する達成水準について、計画どおりの進捗となりました。「年度計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「年度計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅢ評価にしています。 2023年度は、民間企業等への知的財産権の技術移転に関して、66件(達成率132%、26,649千円)の実施許諾等契約を実施し、目標を大きく上回る進捗となりました。その他の達成水準につきましても、計画通りの進捗となりました。「年度計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「年度計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3.2となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅣ評価にしています。 (参考: 年度計画における各達成水準の評価) ■2022年度 ・外部資金の獲得(総額87.7億円): 3評価(実績: 94.1億円) ・民間企業との共同・受託研究の実施(600件): 3評価(実績: 713件) ・特許の活用件数(65件): 3評価(実績: 59件) ・特許出願件数(110件): 3評価(実績: 102件) ・大阪府及び府内自治体と連携して行う事業等の件数(20件): 3評価(実績: 22件) ・府内に事業所を置く地域民間企業等との共同・受託研究(200件): 3評価(実績: 185件) 以上から、$(3+3+3+3+3)/6$=平均点3 ■2023年度 ・民間企業との共同・受託研究の実施(600件): 3評価(実績: 706件) ・特許の活用件数(50件): 4評価(実績: 66件) ・特許出願件数(100件): 3評価(実績: 120件) ・大阪府及び府内自治体と連携して行う事業等の件数(20件): 3評価(実績: 20件) ・府内に事業所を置く地域民間企業等との共同・受託研究(200件): 3評価(実績: 200件) 以上から、$(3+4+3+3+3)/5$=平均点3.2

<大阪公立大学の業務実績に関するご質問・ご意見>

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
24	青木	22	評価の 妥当性 等	キャンパスの グローバル化	Ⅲ	2023年度評価より総合評価が大きく下がる理由は？	2023年度は、コロナ禍で抑制されていた短期派遣等が再開されたことに伴い、目標を上回る件数の海外派遣にかかる説明会を実施しました。また、登録学生・教員向けに海外留学についての情報発信を積極的に行い、さらに海外留学奨励金事業として、短期海外留学奨励制度、中長期海外留学奨励金制度を実施し、本事業の利用による海外留学者数は前年度から大きく増加しました。「年度計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「年度計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点は3.7となったため、自己評価基準に基づき、計画全体の評価をⅤ評価にしています。 中期計画の自己評価につきまして、中期計画の達成水準に照らし、計画通りの進捗であると考えました。「中期計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「中期計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅢ評価にしています。 (参考: 年度計画における各達成水準の評価) ・協定大学等と連携した募集説明会の実施(年間2回以上): 5評価(実績: 3回) ・さくらサイエンス等の招へいプログラムの申請・実施支援: 3評価 ・留学生対象日本語課外講座の実施: 3評価 ・協定大学等と連携した留学プログラムの実施(オンラインを含む): 3評価 ・海外留学についての情報発信及びガイダンス等の実施(年5回以上): 5評価(実績: 8回) ・海外留学プログラム新設のための現地調査助成事業の実施(2件): 3評価(実績: 2件) ・海外留学奨励金事業の利用による海外留学者数増: 3評価 ・学外の海外留学奨学金等の情報提供機会の拡大(説明会の実施2回以上): 3評価(実績: 2回) ・キャンパス内における海外との学生交流プログラム(オンライン含む)の機会の提供(年3回以上): 5評価(実績: 6回) 以上から、$(5+3+3+3+5+3+3+3+5)/9$=平均点3.7 (参考: 中期計画における各達成水準の評価) ・ポストコロナ時代に対応する国際留学の立案及び実施: 3評価 ・短期から長期の多様な海外留学プログラムの展開: 3評価 ・学生の海外派遣支援の充実: 3評価 ・キャンパス内での多文化交流事業の充実: 3評価 以上から、$(3+3+3+3)/4$=平均点3

<大阪公立大学の業務実績に関するご質問・ご意見>

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
25	水谷	22	評価の 妥当性 等	キャンパスの グローバル化	Ⅲ	取組実績を見る限りは良好な結果を示しているように思います。もう1段階上の評価でも良いかと思いますが、自己評価が中位水準にとどまった判断理由とその結果が生じた原因は何があるのでしょうか。	中期計画の達成水準に照らし、計画通りの進捗であると考えました。「中期計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「中期計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅢ評価にしています。 (参考: 中期計画における各達成水準の評価) ・ポストコロナ時代に対応する国際留学の立案及び実施: 3評価 ・短期から長期の多様な海外留学プログラムの展開: 3評価 ・学生の海外派遣支援の充実: 3評価 ・キャンパス内での多文化交流事業の充実: 3評価 以上から、$(3+3+3+3)/4=$平均点3

＜大阪府立大学及び大阪市立大学の業務実績に関するご質問・ご意見＞

番号	質問 委員	計 画 No.	質問 分類	項目	自己 評価	内容	回答
26	青木	39	評価の 妥当性 等	(市大)教育の 質保障	Ⅲ	2023年度評価より総合評価が下がる理由 は？	2023年度は、全学FD事業の実施に関して、当初の計画に加えて、最新のニーズに応じた企画を追加で実施するなど、目標を上回る進捗となりました。その他の達成水準についても計画どおりの進捗となりました。「年度計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「年度計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3.2となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅣ評価にしています 中期計画の自己評価につきまして、中期計画の達成水準について、に照らし、計画通りの進捗であると考えました。「中期計画の達成水準」を目標の達成度に応じて「5」～「1」までの5段階で評価し、「中期計画の達成水準」の平均値を算出した結果、平均点が3となったため、自己評価の基準に基づき、計画全体の評価をⅢ評価にしています。 (参考: 年度計画における各達成水準の評価) ・学士課程3、4年生を対象とする学生調査の実施: 3評価 ・大阪市立大学のニーズを反映させたFDの実施: 4評価 ・アクティブラーニング型教育や自律的学修支援のための教育・学修相談・教材開発・企画等の継続実施: 3評価 以上から、$(3+4+3)/3$=平均点3.3 (参考: 中期計画における各達成水準の評価) ・教学IR機能を備えた組織の設置及びそれに基づく教育の質保証システムの強化 ・組織的なFD活動の充実 ・大阪公立大学における学修支援事業の市大での実施 以上から、$(3+3+3)/3$=平均点3

<法人の業務実績に関するご質問・ご意見>

番号	質問委員	計画No.	質問分類	項目	自己評価	内容	回答
27	水谷	45	その他 (事実確認等)	学長・校長のリーダーシップが発揮できる運営体制の構築	Ⅲ	学長が大学運営を円滑に進めるために、新たな課題として挙げたものは何かあるのでしょうか。特に旧府大と旧市大の統合により、大学運営上のコーディネーションの問題はなかったのでしょうか。	新大学開学に伴い、三大学の円滑な運営が課題として挙げられますが、教育研究審議会等において、三大学の会議を同時開催とすると共に、構成員の統一や会議資料の一本化を図るなど、大学機関会議の組織体制を整備し、一体的に運営を行っています。
28	海崎	52	その他 (事実確認等)	業務の効率化及び適正化	Ⅲ	UR森之宮ビルに本部機能を移転した後、法人全体の業務統一・標準化・効率化のために、現時点で認識している重要性の高い課題をお聞きたい。	分散するキャンパスを超えた連携が必須となったため、病院も含めた法人全体のDX推進を軸に据えながら、生産性の向上と運用最適化を目指し、業務フローや執行体制の徹底的な見直しを進めております。併せて、多拠点運用を効率的に行うため、機能的な集約にも重点的に取り組んでおります。